

## (10) 会社経営の基本方針

ユビキタスネットワーク社会の進展とともに、ITは社会のあらゆるところに浸透し、大きな利便性と変化をもたらしています。企業においては、ITは業務プロセスとの結びつきを深め、単なる効率化の手段にとどまらず、事業活動展開との一体化が進んでいます。こうした中で、経営基盤、社会基盤としてのITシステムは一層高度化し、以前にも増して高い信頼性が求められています。

富士通グループは、常に新しい価値の創造に努め、強いインフォメーションテクノロジーをベースに、お客様の求める高性能・高品質のプロダクト、サービスによるトータルソリューションを永続的に提供することにより、利益と成長を実現し、国際社会・地域社会との共存共栄を図ることを目標としています。お客様の置かれている環境、ビジネスや課題を真に理解した上で、お客様のビジネスの成長と発展に寄与するIT活用を形にしていまいります。また、ITシステムの安定稼働が、経営活動や社会活動の維持に不可欠であるという事実を重く受け止め、運用品質の向上にむけて、一層注力してまいります。これらを通じ、お客様に信頼されるパートナーとして、お客様とともに成長することを目指してまいります。

## (11) 中長期的な経営戦略および対処すべき課題

世界のIT投資は緩やかに増加しております。国内においても、業種や企業ごとで投資行動に差はあるものの、企業収益の回復に伴い、全般的に、緩やかではありますが、IT投資に積極的な姿勢が見られるようになってきております。一方で、サービス/製品の価格低下や競争激化の傾向は継続するものと考えられます。今後も、富士通グループは、厳しい環境下においても確実な利益成長を実現できる収益力を目指します。そして、高い収益力を実現することにより、商品力強化、販売増加、再投資へとつなげて、持続的な成長を目指します。

富士通グループは、2004年度より「既存ビジネスの徹底した体質強化」「新しい事業を創り、育てる」「フォーメーションの革新」「マネジメントシステムの革新」の4つのチャレンジ項目を掲げ、全社をあげて取り組んでおります。2006年度は集大成として一層取り組みを強化してまいります。

### 1. 既存ビジネスの徹底した体質強化

設計、開発、製造、営業等のあらゆる場面において、品質向上、原価低減、スピードアップに取り組んでおります。特に、システム運用の品質については、2005年11月より、お客様システムの総点検を開始し、システムの信頼性向上のために運用品質の向上に向けた取り組みを強化しております。また、ソフトウェアの受託開発については、不採算プロジェクトの低減のために、SIAシユアランス活動を強化するとともに、引き続き開発の効率化に取り組んでまいります。ものづくりにおいては、サプライチェーン全体を視野に入れた生産革新活動を展開してまいります。

サービス事業においては、引き続きBPO(Business Process Outsourcing)を含めたアウトソーシングサービスの拡大を図ってまいります。また、サーバ/ストレージ/ネットワーク/ミドルウェアなどのプロダクトにおいては、拡販運動を推進するとともに、日本、英国、ドイツ、米国カリフォルニア、シンガポール、韓国に続き、中国上海に検証施設を開設し、システム全体の信頼性を高めたIT基盤「TRIOLÉ」の展開を加速してまいります。電子デバイス事業では、注力するロジックLSIにおいて、最先端量産技術の90nm/65nmテクノロジーに対応した300mmウェーハ採用の三重工場能力増強とともに、新たな量産新棟への投資を決定しております。お客様とのパートナーシップを強化し、当社の強みであるソフトウェアや解析・検証能力を活かしてお客様の商品開発のスピードアップに貢献し、早期の投資回収を目指してまいります。